

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立小池小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・意欲的に学習に取り組み、既習事項を活用して課題に対する自分の考えを表現したり、友達と考えを交流し、その考えを理解しようとしたりする姿が育成された。
- ・学習効果測定では、どの領域も目標値を上回っており、全体的に学力の定着ができた。

(2) 課題

- ・時間や重さ、分数や小数など量感や抽象的な概念の理解を育む指導を工夫する必要がある。
- ・文章をよく読んで問われていることに正確に答えることが苦手な児童が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

【◎…目標値を上回った(+5以上) ○…目標値と同程度(±0～+4.9) ▲…目標値を下回った】

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	◎	/	/
第5学年	◎	○ (第4学年時)	/
第6学年	◎	○ (第5学年時)	○ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回っているが、他の観点に比べるとその割合は低い。長さや重さなどの領域が、他の領域に比べ正答率が低い傾向にある。	正答率が目標値を上回っている。2けた×1けたなどの計算の仕方を説明する問題は、正答率が低い。文章問題から、正しい式を立てることは、できている。	正答率が目標値を上回っている。算数への関心・意欲が高く、主体的に取り組める児童が多いと考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を上回っているが、他の観点に比べるとその割合は低い。概数の理解や、分数と小数の大小比較、作図などが低い傾向にある。	正答率が目標値を上回っている。四角形の内角の和の求め方を説明する図形の面積の求め方を説明する問題の正答率が低い。	正答率が目標値を上回っている。算数への関心・意欲が高く、主体的に取り組める児童が多いと考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○具体物や半具体物を使ったり、簡単な図をかいて考えたりする活動を取り入れるようにする。</p> <p>○単元の学習が終了しても、プリント等を通して継続的に計算に取り組みさせるようにする。</p>	<p>○自分がどのように問題の式や答えを考えたのかを、言葉で発表する活動を取り入れるようにする。</p> <p>○友達の考えを紹介したり、既習事項を活用させたりする活動を取り入れるようにする。</p>	<p>○植物の観察時に長さや高さを測るなど、実生活と関連させるようにする。</p> <p>○時間の単位を日常生活で使っていくことの良さに気付かせ、目盛りを正しく読むことの大切さを実感できるようにする。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○長さや重さなど「測定の領域では、実際に測定する場面を設け、その際には見当をつけてから測定させるようにする。</p> <p>○筆算では、繰り上りや繰り下がりを書き、検算を行うことで、正確に解けるようにする。</p>	<p>○自分の考えを図や表、言葉を用いて表現する経験を積み重ね、説明する力を身に付けるようにする。</p> <p>○要点を意識させ、模範的な説明の仕方を提示した上で説明する経験を増やすようにする。</p>	<p>○既習内容を算数の学習だけでなく、日常生活や他教科で活用できる場面を増やすようにする。</p> <p>○学習内容に合わせて、タブレットを効果的に活用した授業を実施する。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○整数の仲間分けでは、算数用語を使うように指導することで、数字と言葉を繋げていくようにする。</p> <p>○小数や分数の計算では、繰り返し指導することで確実に力をつけさせるようにする。</p>	<p>○問題文を読み取る際に、数や量の大きさを正しく捉えるために、数直線や図に表して考えることができるようにする。</p> <p>○視覚的な情報を与えるために、ICTを活用し思考の手助けになるようにする。</p>	<p>○算数が日常の生活や他の学習で使われている場면을課題として設定する。</p> <p>○既習事項を生かすことで課題を解決できることに気付かせるために、学習の振り返りの時間を意図的に設定する。</p>